

スギ枝を利用した生け花 素材（スギフラワー）（89）

増田署 湯元担当区事務所 ○佐藤 辰郎
中沢 健一

1 はじめに

増田営林署・湯元担当区部内には、四季折々素晴らしい峡谷美を見せる小安峡温泉があります。この温泉に木を入れておくと、樹皮が簡単に剥けることは昔から知られていました。そこで「この方法を利用して、何かを作ることができないのか」皆んなでいろいろとアイデアを出しあいました。

その結果、日常生活の中で潤いと安らぎを与えてくれる「生け花」、この生け花の素材としてはどうかということでした。

まず、原材料として考えたのがスギの枝です。スギは細かい枝がたくさんあり、生け花素材として最適だと考えました。また、材料の確保が容易で、従来から保育作業等のなかで林地に放置していたものを利用することもできます。

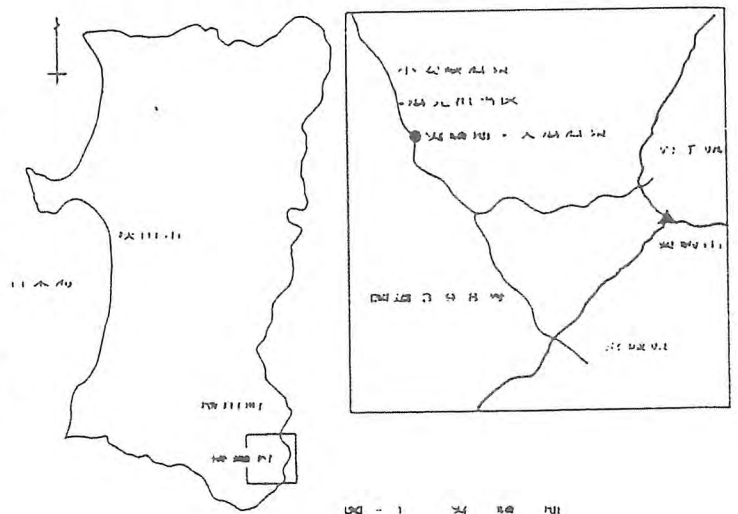
次に、販売面はどうか、収入面はどうかの問題があります。事業として実施するからには、成果をあげなければなりません。いろいろな話し合いの中で販売関係で一部不安はあったものの、署の協力も得て解決できると考えました。

国有林野の事業収入の一部を手助けしたいと希望を込めてこの生花素材を「スギフラワー」と命名して、平成元年度から販売しているものです。

2 商品化まで

生け花の素材として完成するまでには、実験、またやり直しという試行錯誤の連続でした。秋田県雄勝郡皆瀬村小安峡温泉のはずれ名湯大湯温泉を実験の場所として選びました。増田事業区34林班イ小班にあります。

（ 図-1 ）



ここは昔から高温で無色透明の良質な湯が豊富に噴き出しており、温度は98度Cです。

まず、どのくらい湯に浸しておけば樹皮が剥けるのか。剥ける時間にある程度目安が必要です。太い枝、細い枝、採ってから時間を経た枝、採ったばかりの枝、また、湯に浸す季節との関係、いろいろと試しました。

その結果、樹液停止期間では、枝を湯に浸してから皮を剥くまでの時間について5時間、7時間、12時間、15時間と実験したところ、5時間～12時間までは剥皮ができませんでした。12時間では皮が剥けるが薄皮（形成層）が取れませんでした。15時間浸すときれいに先端まで剥皮ができました。

（写真-1）

樹液流動期間では、12時間程度で剥皮ができました。ただし、採ってから湯に浸すまでの間30分以上直射日光に当たった枝の場合は剥皮ができませんでした。

枝の太さについては、関係ありませんでした。

また、季節によって枝が着色することがわかりました。樹液流動期間に浸すと枝が白っぽくなり、樹液停止期間に浸すと枝がベージュ色の自然な色合いに着色することがわかりました。（写真-2）

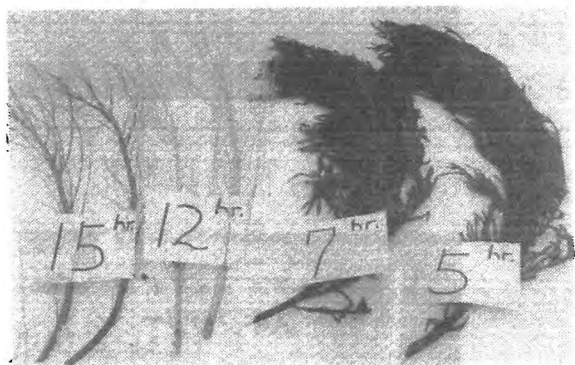


写真-1



写真-2

なお、色合いを強くするには、更に3～4時間長く湯に浸しておくことができるとわかりました。はっきりしたことはわかりませんが、スギの樹皮（形成層）に含まれる成分と、温泉水に含まれる微量成分とが化学反応しての結果と考えられます。

次にこの美しい形状をどの位保つことができるか。製作後、需用者が利用する期間をも考える時重要な課題です。これについては、水を張った入れ物に浸しておくことにより枝にシナヤカさがもどり、この商品は長期間の利用が可能となりました。（写真-3）

写真4～8により製作工程を説明します。湯に浸したスギ枝（写真-4）を引き上げ樹皮を枝先のほうへしごいて剥きます。（写真-5、6） 1～2分で（写真-7、8）のように出来上ります。



写真-3

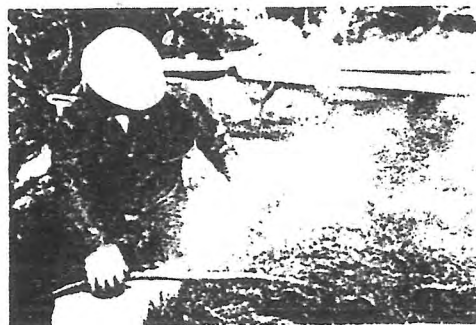


写真-4



写真-5

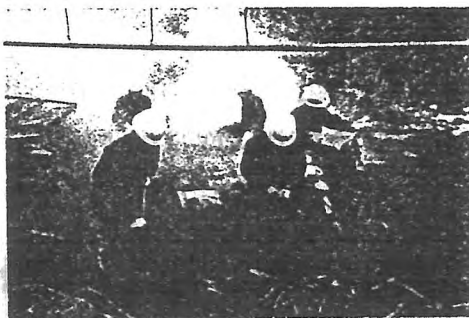


写真-6

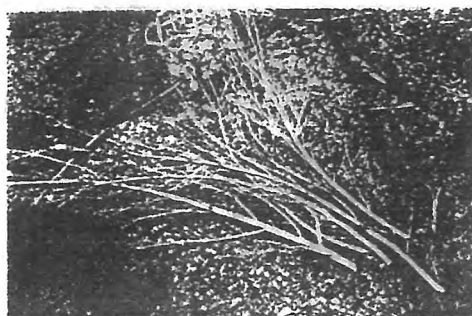


写真-7



写真-8

3 販売とその結果

スギフラワーは昭和63年度冬期の特定事業として生産が始まりました。生産量は1,100本、そして平成元年度の生産量は7,100本と生産も本格的になりました。更に今年度は夏期事業で2,000本の生産、冬期事業では5,0

00本の計画をしています。

収入面においては、元年度の場合816,200円となりました。また、一人一日当たりの収入額は延雇用量142人でしたので、5,748円となりました。一人一日当たりの生産量は50本でした。(表-1)

表-1 年度別 生産量等

年度	生産量 本	販売額 円	従事者 人数	1人1日当たり		備考
				生産量	販売額	
S.63	1,100	143,000	46	24	3,109	
H.元	7,100	816,200	142	50	5,748	
H.2	7,000	840,000	140	50	6,000	計画

販売面においては、その生産量の約70%を秋田市の花屋「秋田フラワーセンター」に出荷しており、他は営林署で随時販売をしております。

「フラワーセンター」を経営している阿部弘文さんには、「木材の感触が楽しい、素朴な味わいがある他に見られない素材」と喜ばれております。

商品としては、未だ未知数ということもあり、署・担当区一体となってPRしていますが、これまで新聞報道3社で5回、テレビ報道1社1回、ラジオ報道1社1回、他に営林署作成のチラシを配布しています。(写真-9~11)

最大のPRとなったのはなんとといっても大阪で開催された世紀のイベント「国際花と緑の博覧会」に出品したことでした。

2年6月17日・18日に行われた「花点前」で、琴の音に合わせて花の生け込む過程を観客の皆さんに見て戴くもので、世界の人々にむけてPR出来ました。発表が終わった後も質問があったそうで、おおきな反響を得ることができました。(写真12~14)

4 おわりに

地元の温泉と身近にある材料を利用して、皆んなで何かを作ろうとしてできたのがスギフラワーでしたが、予想外の大きな成果が得られました。

しかし、更に事業の拡大を図るためには販売面での検討、すなわち県外も含めた販売ルートの開発とともに「生け花」の素材のみならず、室内装飾・オブジェ等への使用が可能となるものの製作も必要でないかと考えます。

それから、地元皆瀬村の村興しの計画に沿いたいということもあります。地元において、木工品等の新たな開発を促進して、活気ある村作りに協力し過疎化に

歯止めしたいという考えです。

「スギフラワー」は、収入源となり、かつ、今まで利用価値の無かったスギ枝の有効活用ができる優れた商品だと思います。そして、なによりも貴重なことは、仲間がそれぞれ国有林のために「何かをやろう」「なにかができるはずだ」という気持ちで進めて来たことです。

微々たることですが、今後とも国有林野事業の経営に少しでも役立ちたいと考えています。

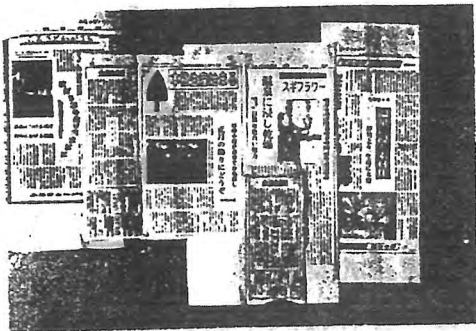


写真-9

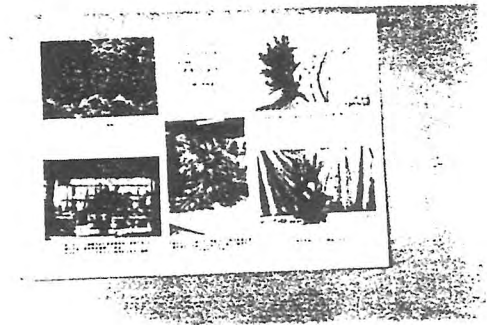


写真-10

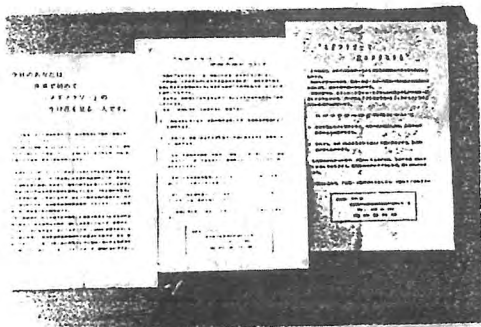


写真-11

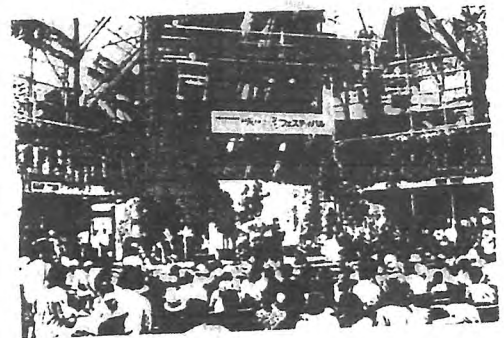


写真-12



写真-13

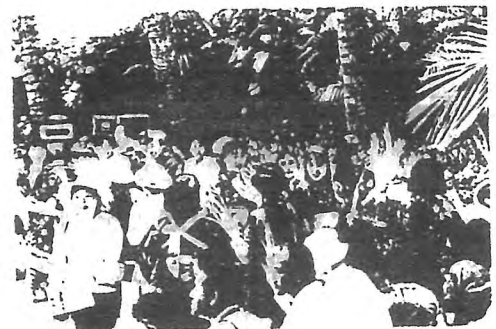


写真-14